



関西学院大学リポジトリ

Kwansei Gakuin University Repository

合理的な人々：未来の世代に残したい資産

著者	カオ ティ キャン ゲット
雑誌名	エコノフォーラム
号	26
ページ	73-73
発行年	2020-03
URL	http://hdl.handle.net/10236/00028471

2019年
11月21日
木曜日

経済学では、人々の行動について分析するとき、重要な仮定をする。それは、合理的な人々という仮定である。合理的な人々とは、目標を達成するのに、与えられた条件の下で、手立てを整えてベストを尽くすということである。ここで、まず、合理的な人々に与えられる条件にある「希少性」と目標を達成するとき、直面する「機会費用」について、一緒に考えたい。

「希少性」とは、何かが足りない状況を表す言葉である。希少性を緩和するのに、使いたい量を減らすか、使える量を増やすかという2つの方法がある。使いたい量を減らすのは人間の意欲を制限することで、使える量を増やすのが優先されるべきである。また、「機会費用」というのは、一つのことを選択するのと同時に、他の選択を辞めざるを得ないことを意味する。だから、ある選

カオ ティ キャン グエット 専任講師（開発金融論・応用計量経済学）

合理的な人々 未来の世代に残したい資産

択をする時に、すべての選択の費用（何を犠牲しなければならぬのか）と利益（何が得られるか）を検討する必要がある。

次に、日本のことについて一緒に考えたい。日本は戦後めざましい成長によって経済的大国となったが、90年代以降その成長率が減速している。直近の5年間の平均成長率をみても、1%前後の低い伸び率にとどまっている。さらに、生産に用いられている労働という生産要素も不足となり、日本の経済成長に懸念感が高まっている。深刻な労働力不足を解決するのに、日本政府はロボットの普及、外国人労働者の受け入れ、女性と高齢者の労働供給の増加等、様々な政策を実施している。これらの政策によって一定の成果を遂げれば、日本の経済は再びめざましく成長できるであろう。

ときの日本の社会のイメージを考えてみよう。まず、ロボットの普及により、日常生活には、ロボットとの付き合いが増えていく。関学のチャペルの時間にも、ロボットがお話をしてくれる可能性も十分にある。また、高齢者と女性の労働供給の増加により、高齢者の休暇や、女性の子供との遊ぶ喜びも少なくなるだろう。加えて、外国人労働者の受け入れ拡大により、整っていない受入環境で働く外国から来た労働者も期待通りの日本らしい生活水準を堪能できるわけではない。そのような生活を日本にいる人々が実現したいと思っているのか、また、次の時代にこのような資産を残したいのか考える必要がある。

上記で紹介した「希少性」を日本における人手不足にあてはめると、ロボットの普及、外国人労働者の拡大などを通じて使える量を増やすこ

とができるので、妥当な選択である。しかし、「機会費用」をあてはめると、ロボット、外国人と共働することとなり、「純日本人社会」をやめなければならない。そして、経済成長の目標を達成する道を選ぶのであれば、みんなが期待した生活がある程度犠牲しなければならない。つまり、「希少性」を解決するとき、みんなの「機会費用」も無視してはならない。

いまこそ、人口減少が進んでいる状況に置かれていている経済実態を改めて覚悟する必要がある。その中にいかに豊かな生活を送れるか、これから日本社会、そして世界を支える関学の学生に答えを見つけていただけることを期待してやまない。